

研究パネル

文字を読みはじめた時期の子どもの読解力とその関係要因について

堀江 真由美 玉井 ふみ

県立広島大学保健福祉学部コミュニケーション障害学科

抄 録

本研究では、文字を読みはじめた時期の子どもの読解力レベルごとに関係要因を明らかにすることを目的とした。読解力レベルを3つに分け、1群は短文課題が理解できないもの、2群は短文課題が理解できるもの、3群は文章課題が理解できるものとした。読解力に関係する要因として想定される文字を音韻に符号化する効率性である読みの速さ・理解語彙能力・記憶容量・作動記憶内の言語処理能力の4つの要因と読解力との関係について検討を行った。その結果、読解力と符号化の効率性・理解語彙能力・記憶容量・言語処理能力にはそれぞれ有意な相関が得られた。また、読解力1群と2群では成績に差が見られたのは符号化の効率性・言語処理能力であり、読解力2群と3群では符号化の効率性・理解語彙能力・記憶容量・言語処理能力であった。このことから、短文理解には読みの速さが一定速度以上の必要があり、音韻的な符号化の効率性と読解力の関連性があり、また言語処理能力にも関連性が示唆された。また、文章理解には音韻の符号化が一定の速さ必要であり、理解語彙能力と記憶容量と言語処理能力にも関連性が示唆された。

キーワード：文字を読みはじめた時期の子ども、読解力、符号化の効率性をみる読みの速さ、理解語彙能力、記憶容量、作動記憶内の言語処理能力